

ADOBE® ACROBAT® 8 PROFESSIONAL

クリエイティブプロ向けの機能紹介

Adobe Technical Guide

アドビテクニカルガイド

2007 02

Acrobat 8 Professionalに搭載された強力なツールの数々を使用すれば、PDFの作成からレビュー、高品質な印刷用ファイルの出力までを効率的に行えます。PDF/XやJDFなどの業界標準規格をサポートするAcrobat 8 Professionalは、今日のデザイン・印刷ワークフローに不可欠なツールです。



目次

Acrobat活用の鍵は「印刷工程」ツールバーにあり! 3

1 プレビュー

最終的な出力結果を画面上で確認、シミュレートする「出力プレビュー」.....	4
プロファイルの選択等.....	4
インキ使用量の警告表示.....	5
カラースペースや特性ごとにオブジェクトを表示.....	6
オーバープリント、リッチブラックを表示.....	7
分割・統合プレビュー.....	8



2 プリフライト

機能が充実し、使い勝手も向上したプリフライト機能.....	9
結果レポートを多様な形で出力.....	11
プロファイルの編集が容易.....	11
フィックスアッププロファイル.....	12
プリフライトドロップレットを作成.....	13



Acrobat活用の鍵は「印刷工程」ツールバーにあり!

トラッププリセット

PDFに対するトラップの設定を行います。通常はデフォルトのままですが、印刷形式によってはカスタマイズする必要があります。

プリフライト

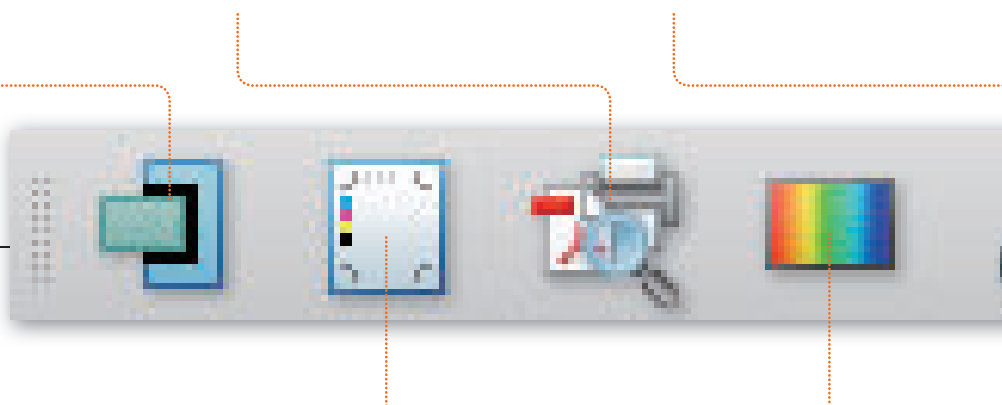
PDFデータによく見られるエラーをチェックし、必要な修正を自動変換により解決します。

インキ

PDFデータを変更せずにインキの取扱い方法を変更できます。

【印刷工程ツールバー】

▶アドバンスドメニュー／印刷工程／印刷工程ツールバーを表示



出力プレビュー

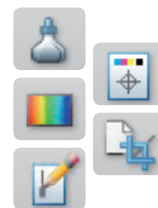
出力上の問題点をすばやく、かつ詳細に確認することで、再出力にかかるコストと時間を抑えることができます。

色を置換

PDF内のデータを、指定したカラースペースに変換することができます (RGB→CMYKに変換するなど)。

3 修正・編集

柔軟なインキ管理	14
ドキュメント上でのカラー変換	15
PDF生成時にもカラー変換が可能	16
ヘアラインの修正が可能	16
文書サイズの拡大機能の搭載でトンボの設定が容易	17



4 ファイル管理

Version Cueとの連動	20
PDFキャビネットによるPDFの一元管理	21

5 出力

JDFデータを直接入力、編集可能	22
------------------	----



6 レビュー

Adobe Readerでの注釈の書き込みに対応	23
--------------------------	----

Adobe Acrobat 8 Professionalには、クリエイティブプロ向けのさまざまな機能が備わっています。中でも注目すべきなのが「印刷工程」ツールバーです。これは、その名の通り印刷工程をシミュレーションするための機能をまとめたもので、PDFの内容をチェックするための機能がすべて用意されています。

トンボを追加

トンボ作成機能を持たないアプリケーションで作成されたドキュメントに、トンボを付けることができます。

ヘアラインを修正

0.25ポイント以下といった極細線（ヘアライン）を検索し、それらを印刷の際に安全な線幅へ変更します。

PDFの最適化

ドキュメントの検査、分析、修復や不要なコンテンツの削除によるファイルサイズの縮小などの設定が行えます。

ページのトリミング

ページサイズの拡大に使用します。PDFの一部だけを切り取る機能としても利用できます。

透明の分割・統合

ドキュメント内にある透明オブジェクトの分割・統合のための設定をAcrobat上で行うことができます。

JDFジョブ定義

新しいワークフローのジョブチケットとして注目されているJDFを定義するための機能です。

1 プレビュー

最終的な出力結果を画面上で確認、シミュレートする「出力プレビュー」

画面上での出力プレビューにより
問題のある部分を指摘し、
注意を促すことができます。
出力プレビューダイアログ1つで
出力上の問題の多くを確認できます。

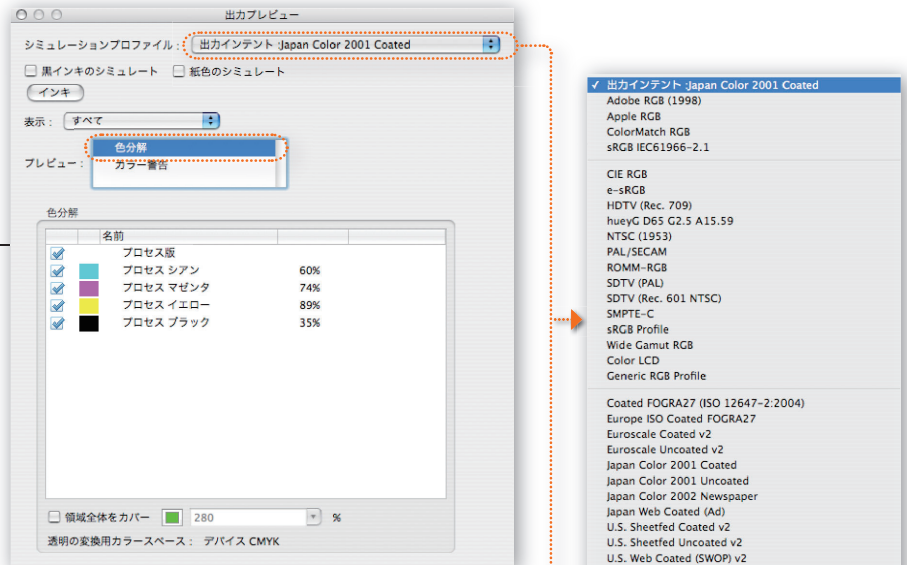


【出力プレビュー】

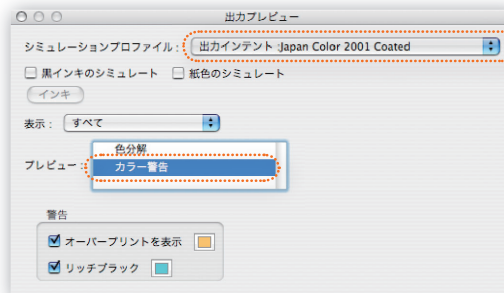
▶アドバンスメニュー／印刷工程／
出力プレビュー...

プロファイルの選択等

シミュレーションプロファイルの選択、黒インキのシミュレート、紙色のシミュレートなどが、このダイアログにまとめられています。



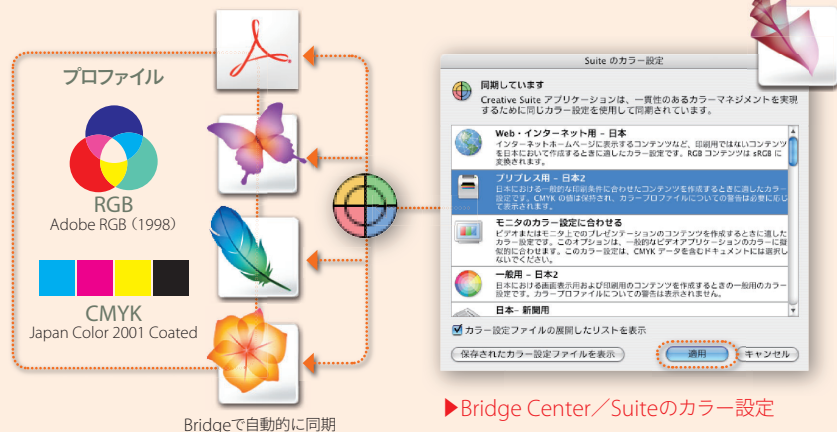
色分解を選択した場合のダイアログ



カラー警告を選択した場合のダイアログ

カラープロファイルの自動同期

Adobe Creative Suite 2.3のユーザーであれば、Adobe Bridgeでアプリケーションのカラー環境を一括設定することができます。その環境で作られたファイルやPDFは、同じ設定を継承するので問題も生じません。



最終的な出力結果を画面上で確認、
シミュレートする「出力プレビュー」(つづき)

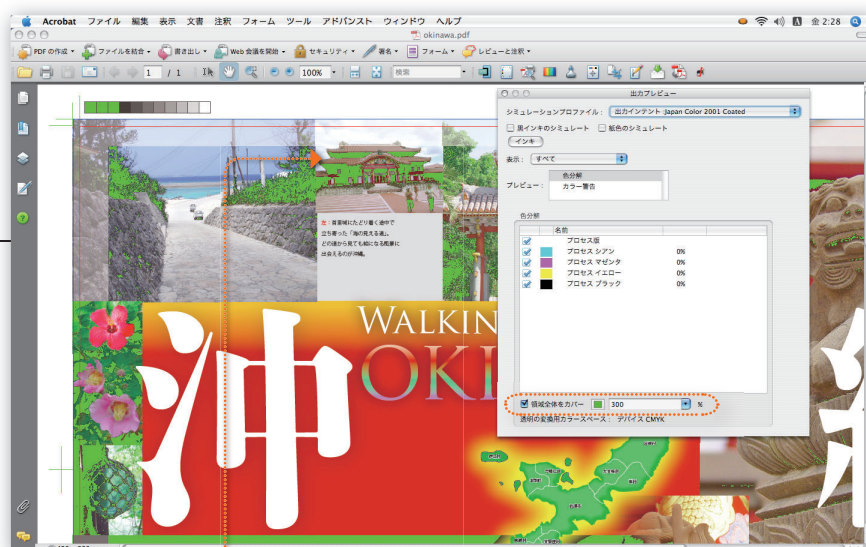
インキは総量が300%を越える
あたりから、後から刷るインキの
「ノリ」が悪くなります。
そこで、安定した発色を得るために
インキ総量を制限する場合が
あります。

インキ使用量の警告表示

Adobe Acrobat 8 Professionalでは、インキ総量200%~400%まで、該当部分を表示することができます。これによって、問題が起きそうな部分を出力前に把握することができます。広告代理店等、インキ総量の制限が多い印刷物を扱う企業にとっては大変便利です。

また、インキ総量が多いページと少ないページが混在していると、印刷のときに問題が起こりがちですが、これも事前にチェックすることができます。

【インキ使用量の警告表示】



設定されたインキ総量に該当する部分は、画面上で緑色で表示されます。

最終的な出力結果を画面上で確認、 シミュレートする「出力プレビュー」(つづき)

表示プルダウンメニューから
カラースペースや特性を選択すると、
該当するオブジェクトのみが
表示されます。

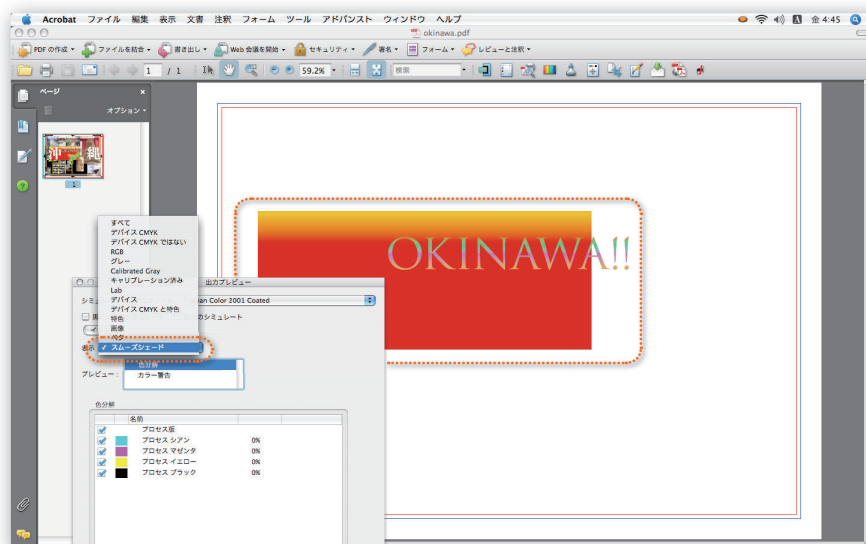
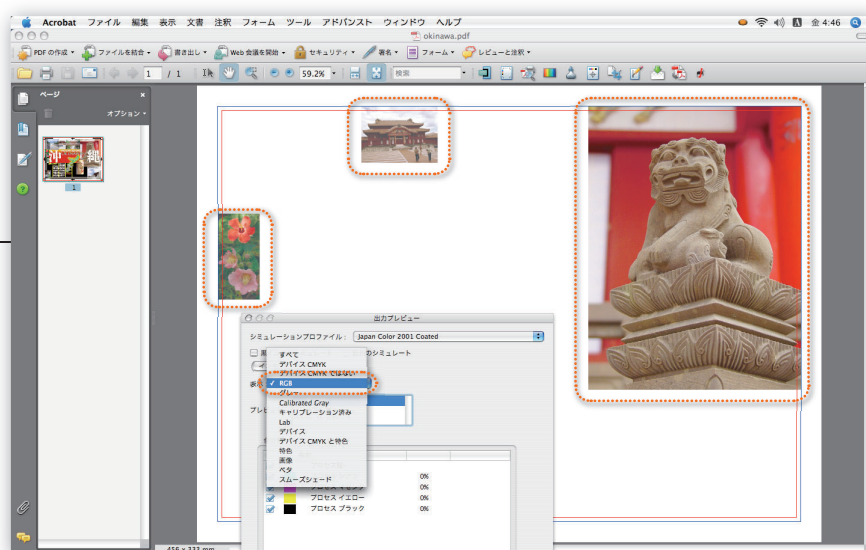
カラースペースや特性ごとにオブジェクトを表示

RGB 画像が混在している場合に、一目でそれがわかります。また、スムーズシェードを利用したグラデーションも検出することができます。

スムーズシェードは、出力機の解像度に応じて最適なグラデーションを再現する仕組みですが、印刷ではデバイスに最適化した確定したグラデーションが欲しい場合があります。そのために事前にスムーズシェードを利用したオブジェクトを把握する必要があります。

【特定のカラースペースの表示】

上はRGB 画像。
下はスムーズシェードオブジェクトを
表示しています。

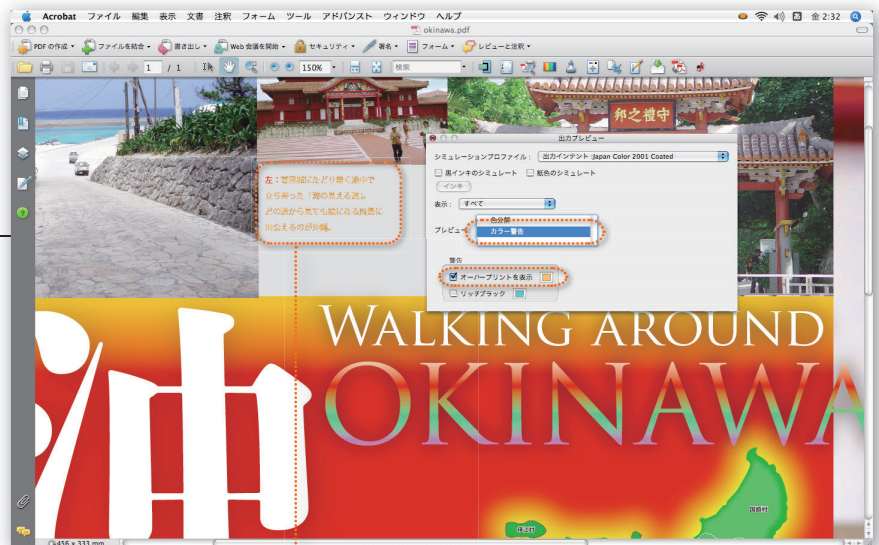


最終的な出力結果を画面上で確認、
シミュレートする「出力プレビュー」(つづき)

オーバープリント、リッチブラックを表示

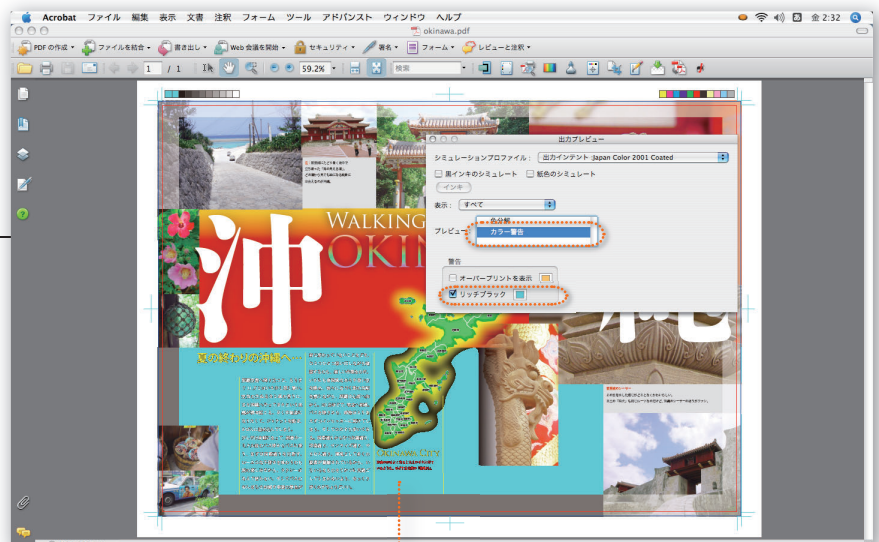
ドキュメント中にオーバープリントが設定されていたり、リッチブラックのデータがある場合には、これを表示することができます。

【オーバープリント】



オーバープリントに該当する部分は、黄色で表示されます。

【リッチブラック】



リッチブラックに該当する部分は、青色で表示されます。

最終的な出力結果を画面上で確認、
シミュレートする「出力プレビュー」(つづき)

透明の分割・統合機能を使用して
透明な領域とオブジェクト、
および透明部分の分割・統合の
影響を受ける領域とオブジェクトを
ハイライト表示します。

分割・統合プレビュー

分割・統合は文書全体、特定のページ範囲を選択することができます。これによって、文書上から透明を一掃し、分割・統合結果をPDF上で確認することができます。

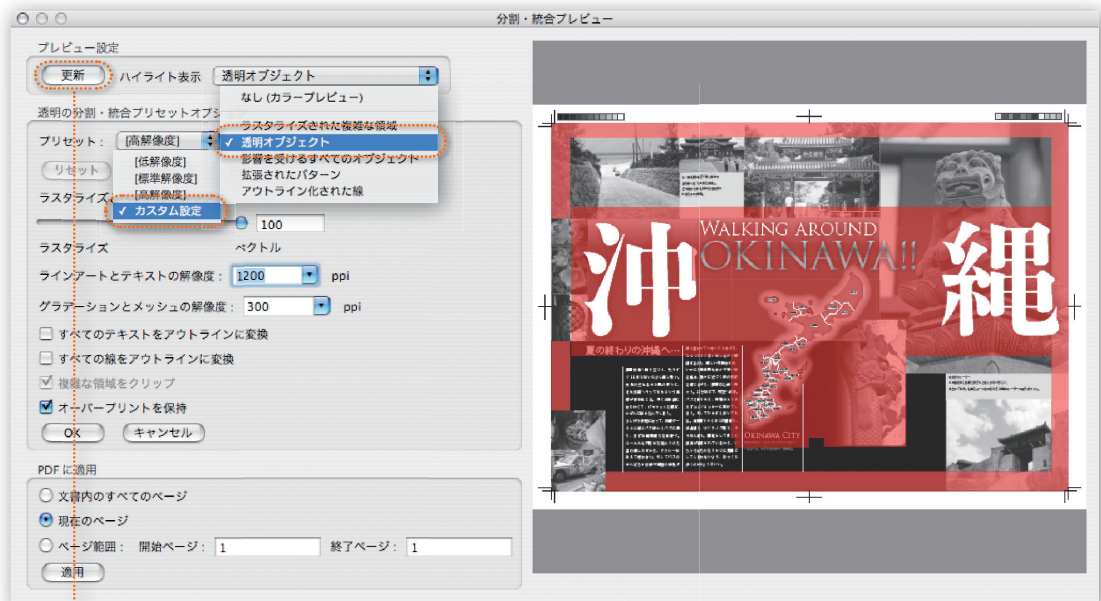
分割・統合はプレビューしてから実行できますので、最適な処理が可能になります。結果のプレビューも見やすくなり、操作方法も簡略化されています。

Acrobat 8 Professionalでは、分割・統合プリセットとして設定内容を保存することができます。保存したプリセットは、PostScriptとして保存する際の設定ダイアログボックス、PDFの最適化、プリント詳細設定ダイアログなど、Acrobat 8 Professionalの他のダイアログボックスから適用できます。



【透明の分割・統合】

▶アドバンスメニュー／印刷工程／分割・統合プレビュー



各種設定を行った後、更新ボタンをクリックすると、結果が右の画面にプレビューされます。影響を受ける部分は赤く表示され、影響を受けない部分はグレーで表示されます。適用ボタンをクリックするまで、文書は変更(分割・統合)されません。

2 プリフライト

機能が充実し、使い勝手も向上した プリフライト機能


プリフライト機能は、これまでに比べ、
非常に使いやすくなりました。

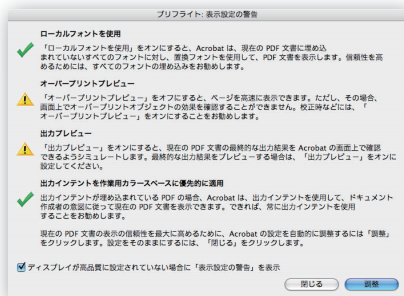
ボタン類が整理され、感覚的に
操作できます。



【プリフライト デフォルトのダイアログ】

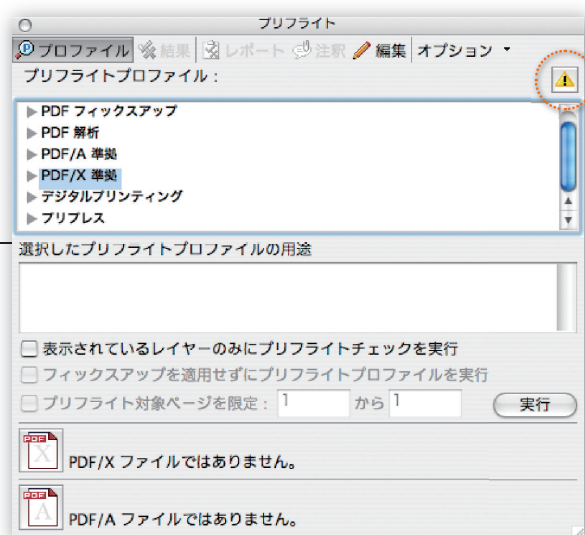
▶ アドバンスドメニュー / プリフライト...

プリフライトダイアログボックスの右上に警告アイコン  が表示された場合は、そのアイコンをクリックすると、PDFを表示する際の潜在的な問題が表示されます。このような問題としては、オーバープリントや、埋め込まれた出力インテントを使用した場合と使用しない場合のカラーマネジメントの影響などが含まれます。「調整」をクリックして矛盾している設定を解決するか、そのままダイアログボックスを閉じます。



【プリフライト実行後のダイアログ】

ダイアログも整理され、1つのダイアログでおおむねの操作を終えることができ、プリフライト結果を閲覧することができます。

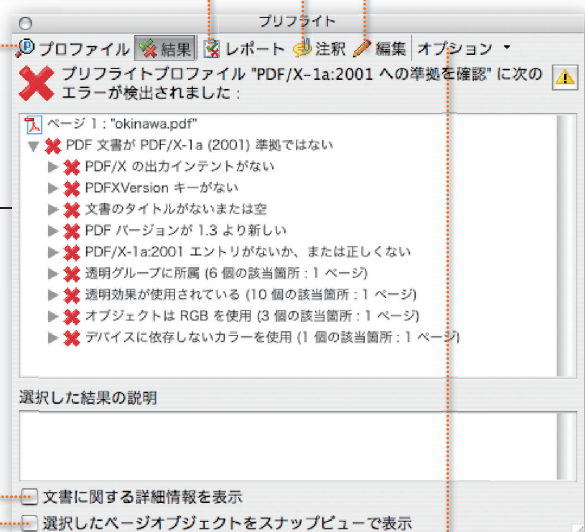


プリフライト結果を注釈に書き出します。

プリフライトプロファイルの
編集を行います。

プリフライト結果をレポートに
書き出します。

プリフライト・プロファイル
選択の画面（デフォルトの
画面）に戻ります。



クリックすると、さらに詳
細な文書情報が一覧の末
尾に表示されます。

クリックすると、問題のあ
るオブジェクトを個別に表
示できます。

プリフライトの全機能をプルダウン
メニューで表示し、実行します。

プリフライト結果は、同じダイアログ上に一覧で
表示されます。個別の項目をクリックすると、
問題のある部分が赤い点線で囲われます。さら
に、個別に問題のあるオブジェクトを指摘する
こともできます。

機能が充実し、使い勝手も向上した プリフライト機能 (つづき)

【プリフライト実行後のダイアログ】



チェックすると、該当のオブジェクトがサムネールで示され、オブジェクトの詳細情報が表示されます。

オブジェクトをクリックすると、該当するオブジェクトが赤い点線で囲まれます。



問題のあるオブジェクトには、問題点を Acrobatの注釈として添付できます。

機能が充実し、使い勝手も向上した プリフライト機能（つづき）

結果レポートを多様な形で出力

プリフライト結果は、レポートとして書き出すことが可能です。書き出し形式としては、PDF、XML、テキストの3種類を選択することができます。

【プリフライト結果保存のダイアログ】

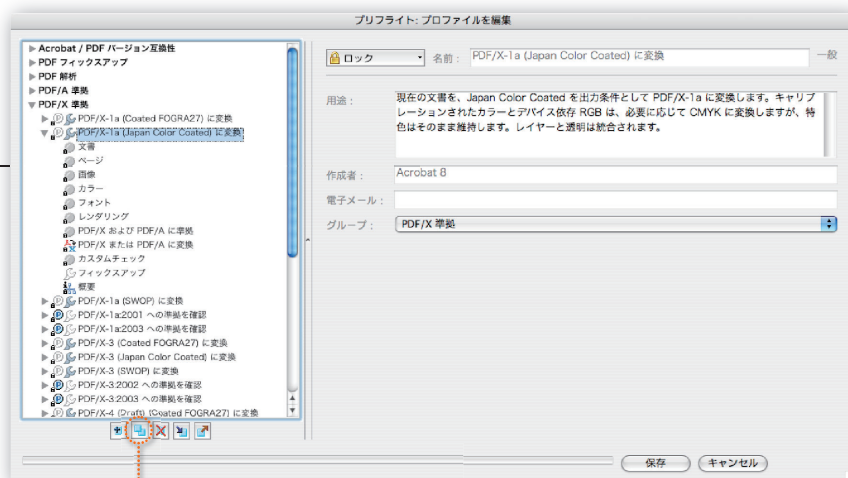


多様なフォーマットで書き出しが可能です。

プロファイルの編集が容易

プロファイルの編集は、個々のプロファイルごと、要素ごとに個別に編集可能です。既存のプロファイルはすべてロックされていますが、すべてのプロファイルを複製することができます。これによって、既存のすべてのプロファイルを使って、新たなプロファイルを作成することができます。もちろん、PDF/X関係のプロファイルもカスタマイズして、別のプロファイルとして保存することができます。

【プリフライト：プロファイルを編集】



PDF/Xプロファイルも複製を作成して、編集することができます。

機能が充実し、使い勝手も向上した プリフライト機能（つづき）

プリフライト機能には、
プロファイルに追加できる
フィックスアップのコレクションが
含まれています。
いずれのフィックスアップも
各プロファイルの
「フィックスアップ」セクションから
利用できます。

フィックスアッププロファイル

プリフライト機能を使用して、多くのエラーを修正できます。行うには、フィックスアップと呼ばれるエラー修正をプロファイルに追加します。可能な場合は、フィックスアップによって自動的に問題点が修正されます。自動的に修正できない場合は、ユーザがソースファイル内の問題点を修正するための情報が提供されます。フィックスアップがあるプロファイルには、横にレンチアイコンが付きま。縁取りのみのレンチアイコンは、プロファイルに関連付けられたフィックスアップがないことを意味します。

プリフライトには、プロファイルに追加できる定義済みのフィックスアップが含まれています。これらのフィックスアップは、色、フォント、画像、印刷工程、PDF/XやPDF/Aなどの国際標準への準拠、その他の領域に影響するさまざまなエラーに対応しています。プリフライトには、独自のフィックスアップを作成するためのツールキットも含まれています。

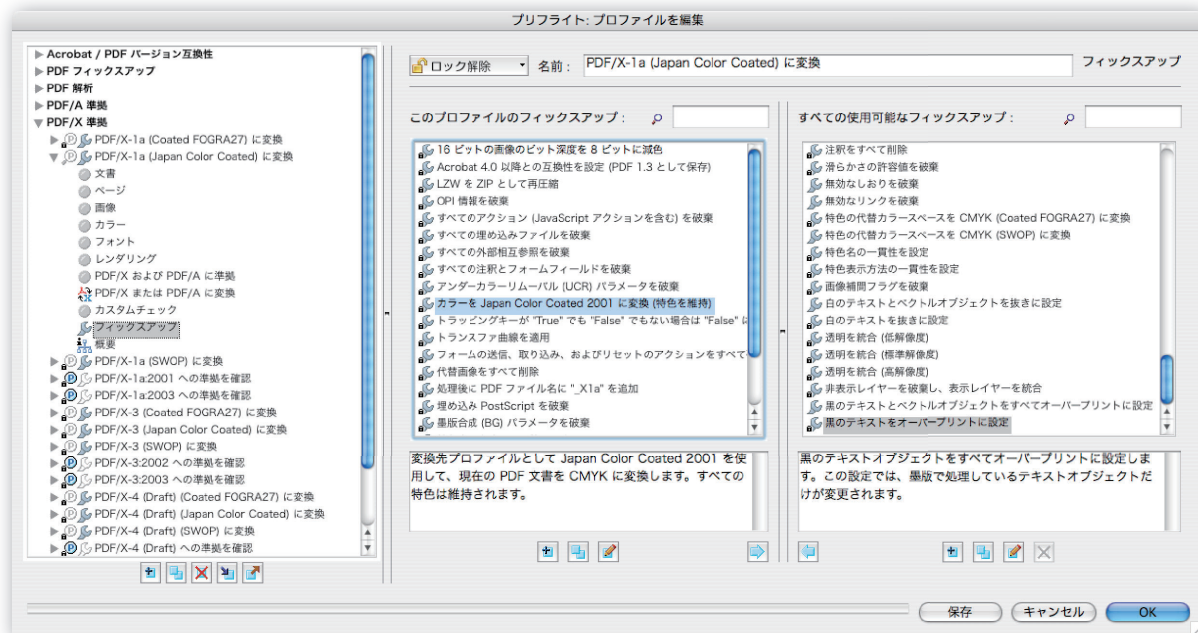
例えば、フィックスアップは次のアクションを実行してエラーを修正することができます。

- ▶色を置換機能と同じように、カラースペースを変換します。
- ▶文書を修復したり不要なコンテンツ除去したりしてファイルサイズを縮小します。
- ▶PDFを別のバージョンに変換します。
- ▶ヘアラインを太くします。
- ▶透明を分割・統合します。
- ▶仕上がりサイズや裁ち落としサイズの外側のオブジェクトを削除します。
- ▶PDF/XまたはPDF/A変換用のPDFを準備します。
- ▶文書情報を設定します。



【フィックスアップのコレクション】

▶レンチアイコンがフィックスアップの目印



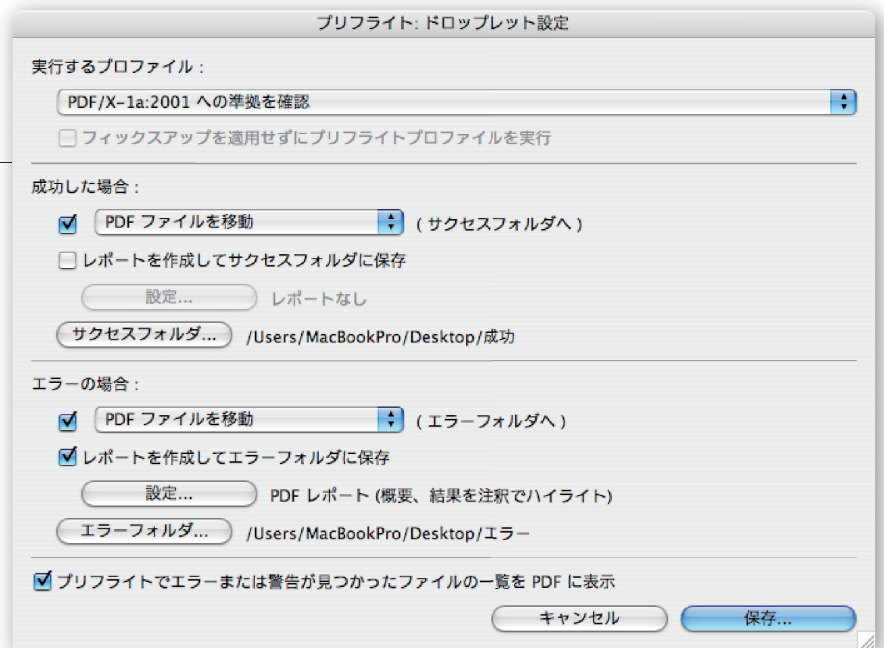
注意：フィックスアップを実行すると、文書は完全に変更されます。

機能が充実し、使い勝手も向上した
プリフライト機能（つづき）

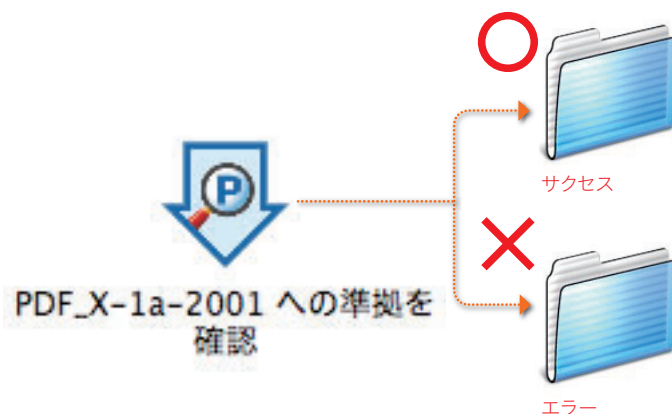
プリフライトドロップレットを作成

プリフライトドロップレットの作成は、プリフライトの結果（成否）によって、PDFを特定のフォルダに送り込むなど、いくつかの処理を行うものです。PDFファイルを自動的に移動させることによって、出力用のホットフォルダを利用して工程を効率化できます。

【ドロップレット設定のダイアログ】



プリフライト後の処理を設定しておくことによって、ワークフローを効率化できます。



3 修正・編集

柔軟なインキ管理

インキを使用して出力時のインキをコントロールすることができます。ドキュメントに手を加えることなく、インキに関するさまざまなシミュレーションが行なえます。

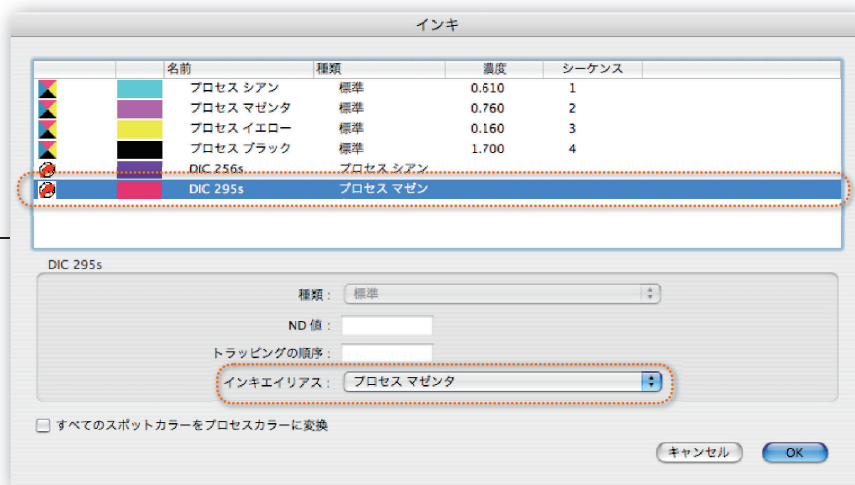
インキエイリアスは、文書上で指定された特色を別の種類のインキによって印刷するように指定することです。置き換えたインキエイリアスの効果は、出力プレビューで確認することができます。もちろん特色をプロセスカラーに置き換えることも可能です。

インキ管理は、Adobe InDesignでは従来から可能でした。Acrobat 8 Professional上でこの機能が実現したことにより、一般のアプリケーションから作成されたPDFについても、同様のインキ管理ができるようになりました。

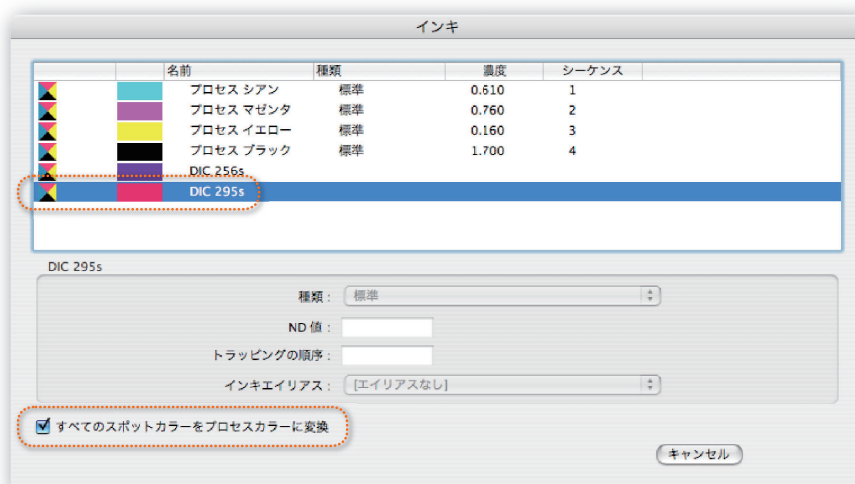


【インキ】

▶アドバンスメニュー／印刷工程／インキ



インキエイリアスを使用して特色を別のインキで印刷するように指示することが可能です。



特色を一括してプロセスカラーに置換することも可能です。

ドキュメント上でのカラー変換

Acrobat 8 Professionalではドキュメント上でカラースペースの変換を行い、保存することができます。

オフィスアプリケーションなど、RGB データしか持てないアプリケーションから作成された PDF であっても、Acrobat 8 Professional 上でCMYK に変換することができます。オフィスアプリケーションデータの印刷での再利用へのハードルが大きくクリアされたといえます。さらに、CMYKデータであっても、ターゲットカラースペースが誤っていた場合、正しいカラースペースへの変更が可能です。CMYK → CMYK 変換の場合、墨文字については、濃度にかかわらずKの濃度が維持されます。

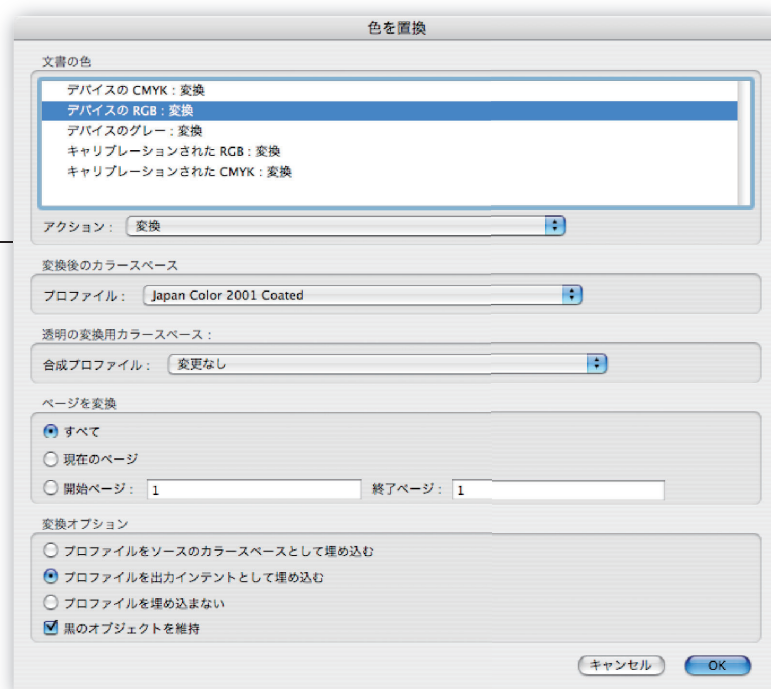
一般のオブジェクトに関しては、CMYK → CMYK 変換の場合、K (黒) がCMYに分解され、Kが薄くなり、濃度によってはCMYのみになります。これを避けたい場合には「黒のオブジェクトを維持」オプションを利用します。

このオプションを設定することによって、墨100%のオブジェクトについては、Kは従前のKの濃度のまま、新たなCMYKに移植することができます。ただし、グラデーション等、階調のあるオブジェクトの一部のK100%の部分については、CMYKに分解されます。



【色を置換】

▶アドバンスメニュー／印刷工程／色を置換...



文書内のカラースペース単位で、ページごとに変換するか、保持するかを選択することができます。また、グレーや特色は、単一のプロセスカラーや特色に変換することも可能です。

PDF生成時にも カラー変換が可能

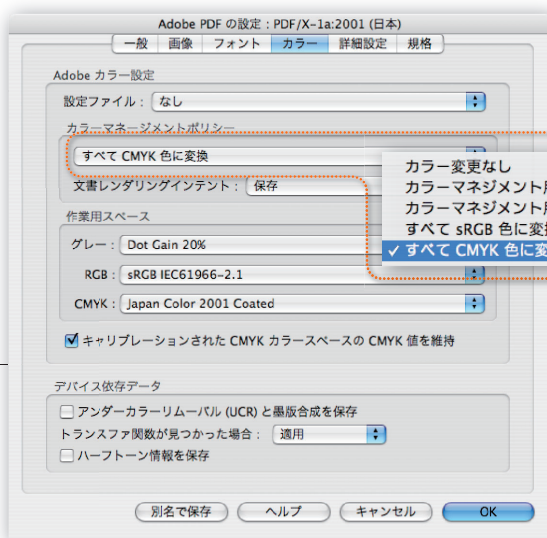
Acrobat Distillerで、
RGBを含んだPostScriptファイルを
CMYK変換してPDF化することが
可能です。
色変換にはICCプロファイルを
利用します。



【Acrobat Distiller】

▶設定メニュー／
Adobe PDF設定の編集／カラー

オフィスアプリケーションなど、RGBベースのアプリケーションからもダイレクトにCMYKのPDFを作成することができます。Windows版では、PDFMakerを経由するPDF変換の場合にも、色変換機能を利用することができます。



RGBアプリケーションからのPDF
変換の場合にも、CMYKへの変換
が可能です。

ヘアラインの修正が可能

非常に細い線、いわゆる
ヘアラインの修正が可能です。
修正後の線の太さはユーザが
設定することができます。



【ヘアライン】

▶アドバンスドメニュー／印刷工程／
ヘアラインを修正...

ヘアラインは、一般のプリンタではおおむね出力されます。これは指定幅よりも太い線になります。しかし、高精度出力機では指定幅のとおり出力され、フィルム、プレートが作成されます。これがあまりに細いと、印刷では再現されたり、再現されなかったりする不安定なものになります。このため、印刷事故を防ぐには必ず修正する必要があります。印刷で安定して出力できる線幅は、一般に0.25ポイント以上といわれています。



ダイアログ中の「Type3 フォント」とあるのは、スクリーンフォントの一種で、ヒント情報を開示しないType1 フォントです。日本語フォントではほとんどありませんが、古い欧文フォントではこのフォーマットが使われていることがあります。ヒント情報が開示されていないので、縮小するとアウトラインを取った字形のようにヘアラインを生ずることがあります。「パターン」はベクトルデータで構成されたオブジェクトのことです。ベクトルデータの縮小によるヘアラインを修正します。

文書サイズの拡大機能の搭載で トンボの設定が容易

ページのトリミング機能は、
ページサイズを縮小するだけでなく
拡大することができます。
これにより新たにトンボを設定し、
保存することが可能です。

プリントしなくてもトンボの確認ができるようになりました。また、トンボの設定を忘れて作成されたPDFにもトンボを付けられます。ページを拡大しても、文書上の仕上がりサイズ、裁ち落としサイズは保持されますので、正確に元の文書サイズ上の必要な座標でトンボが設定されます。手動でトンボを付けるときのようなわずらわしさはありません。さらに、裁ち落とし領域を設定できないアプリケーションから作成されたPDFであっても、この機能で裁ち落とし領域を設定することができます。塗り足しなどが必要な場合にも対応することができます。

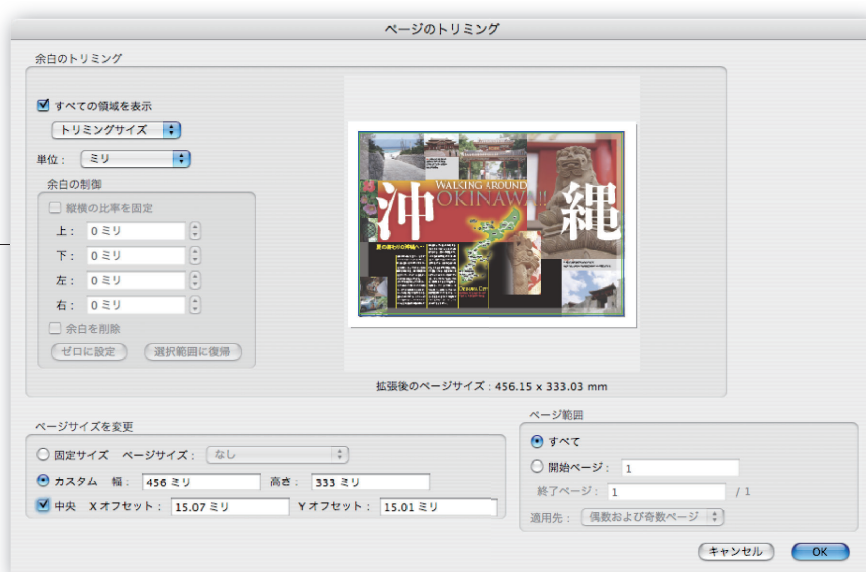
従来はRGBアプリケーションで作成されたPDFは、一度EPSに変換してから、レイアウトソフトに貼り付けて、トンボを付け、製版工程に回していましたが、この機能を利用すれば、PDFのまま印刷工程に回すことができます。オフィスアプリケーションのデータを印刷に使う場合に、非常に役に立ちます。

さらに、DTPアプリケーションで作成されたPDFの場合も、あらかじめトンボを設定できるように、面付け工程への移行がスムーズになります。また、ページ数の少ないものであれば、Acrobat 8 Professional上で手動面付けを行うこともできます。



【ページのトリミング】

▶アドバンスドメニュー／印刷工程／
ページのトリミング



ページサイズを拡大しても、仕上がりサイズ、
裁ち落としサイズの情報は維持されます。

文書サイズの拡大機能の搭載で トンボの設定が容易（つづき）

【ページの拡大例】

上がオリジナルのPDF。
下がページサイズを変更後のPDF。



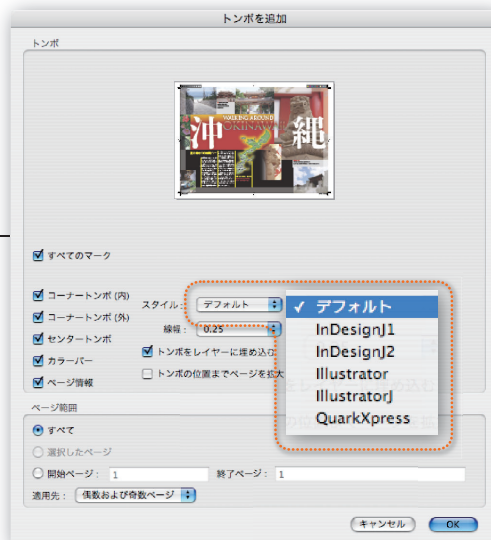
ページ上の余白部分（4辺）が拡大されている。

文書サイズの拡大機能の搭載で トンボの設定が容易 (つづき)



【トンボを追加】

▶アドバンスメニュー／印刷工程／
トンボを追加...



トンボのスタイルは、6種類から選択できます。

【トンボの設定例】

トンボの設定例。トンボのスタイルは、
InDesignJ2を選択しています。



4 ファイル管理 Version Cueとの連動

環境設定／文章から

「Version Cueを有効」にすることで
アクセスが可能です。

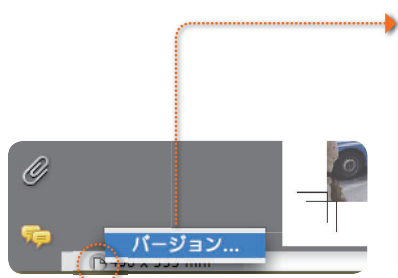
Version Cueとの連動により

デザインや制作の過程で

日常的に行われる作業の一部を

簡略化することができます。

【バージョンの表示と比較】



バージョンの表示と比較は、画面左下のページ
アイコンからアクセス可能です。

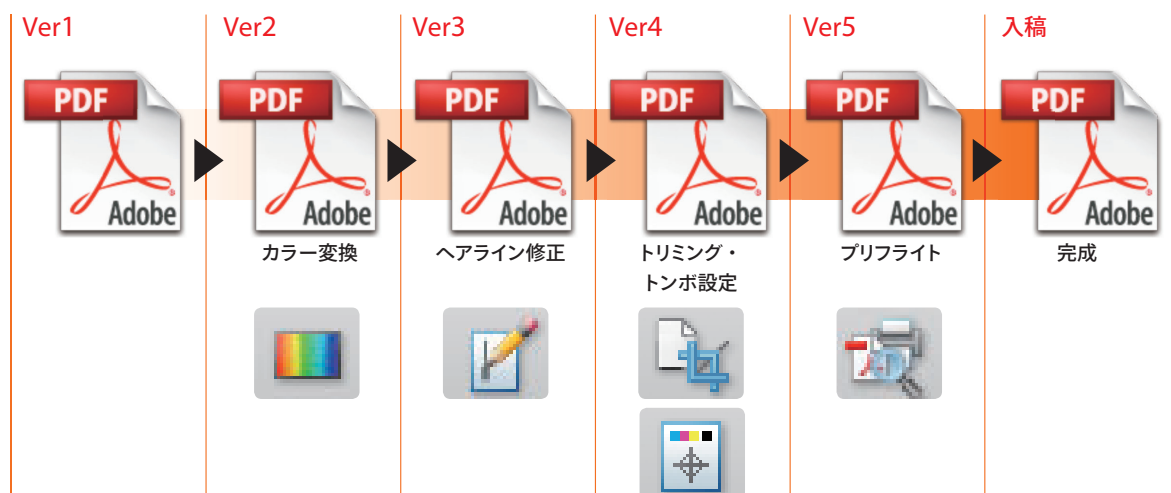
Version Cueへの対応により、PDFのバージョン管理が簡単になります。何度か改定を重ねた場合などに、特定の段階のバージョンに戻る必要ができたとき、簡単にそのバージョンに戻ることができます。この際、ファイル名の変更は必要ありません。Version Cueは同じファイル名で、異なるバージョンを保存することができます。



Version Cueを利用することにより、ファイル名
を変更せずに改定した文書を保存することが
できます。また、任意のバージョンを随時呼び出
して利用することができます。

【Version Cueの機能】

【文書のバージョン】



Version Cueによって、各バージョンは任意の
タイミングで、再利用し、修正、変更、保存が
できます。

PDFキャビネットによる PDFの一元管理

「PDFキャビネット」では、PDFのサムネールを一覧表示します。そして、履歴、保存場所、お気に入りの場所、コレクションによってPDFファイルを整理し、目的のファイルをスピーディーに検索することができます。さらにファイルを開くことなく、選択したPDFファイルすべてのページを閲覧したり、複数のファイルを結合したり、レビュー用に電子メールですばやく送信することができます。

【PDFキャビネット】

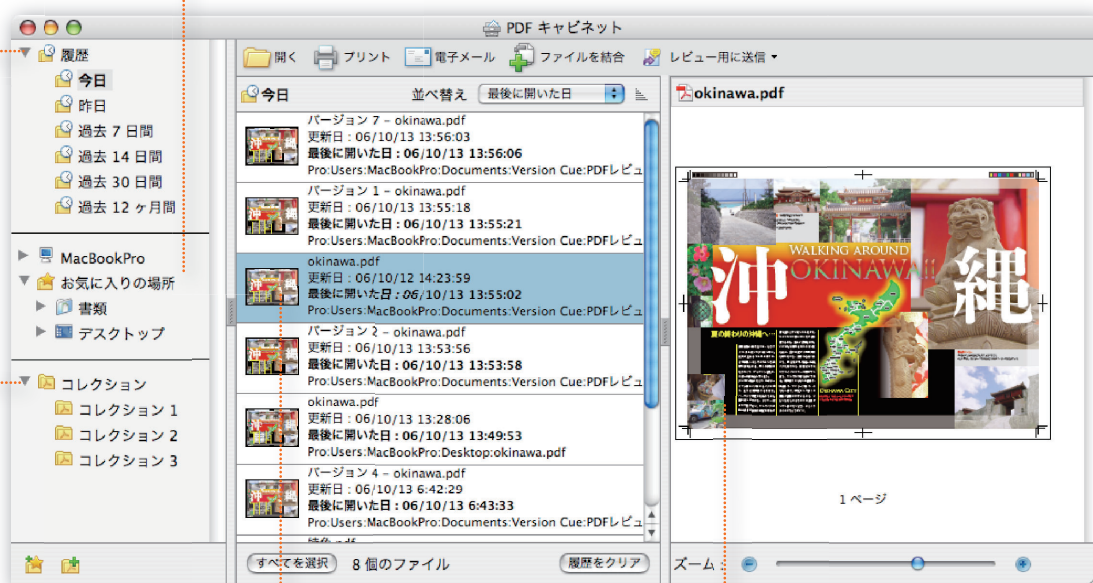
▶ファイルメニュー／PDFキャビネット／
PDFキャビネットを開く

履歴一覧

PDFファイルの使用履歴を管理します。

場所一覧

フォルダの階層を表示し、PDFの保存場所を検索。任意のフォルダをお気に入りの場所に指定することも可能です。



コレクション一覧

関連するPDFファイルをグループ化することで、コンピュータ上の別々の場所に保存されているファイルをコレクションすることができます。サムネールをドラッグ&ドロップして追加できます。

ファイルパネル

選択したカテゴリ内のPDFファイルのサムネールおよび一覧を表示します。

ページパネル

選択したPDFファイル各ページのサムネールを表示、表示サイズの変更も可能です。

5 出力

JDFデータを直接入力、編集可能

プリプレスから印刷、後工程までを統合的に管理、運用するCIP4^[注1]が普及しようとしています。

この仕組みをデータ面で支えるフォーマットがJDF^[注2]です。

CIP4で運用される各デバイスは、JDFによって運用、コントロールされます。このJDFを、Acrobat 8 Professional上で直接入力し、編集することが可能です。

Acrobatでは、従来からXMP^[注3]というXML^[注4]のサブセットを搭載することにより、XMLフィルタを介してJDFによる運用が可能でしたが、JDFを直接入力、編集できることによりXMLフィルタを利用しなくても、PDF作成以降のワークフローへ直接、必要なデータを送ることができるようになりました。



[JDF]

▶アドバンスメニュー／印刷工程／JDFジョブ定義...

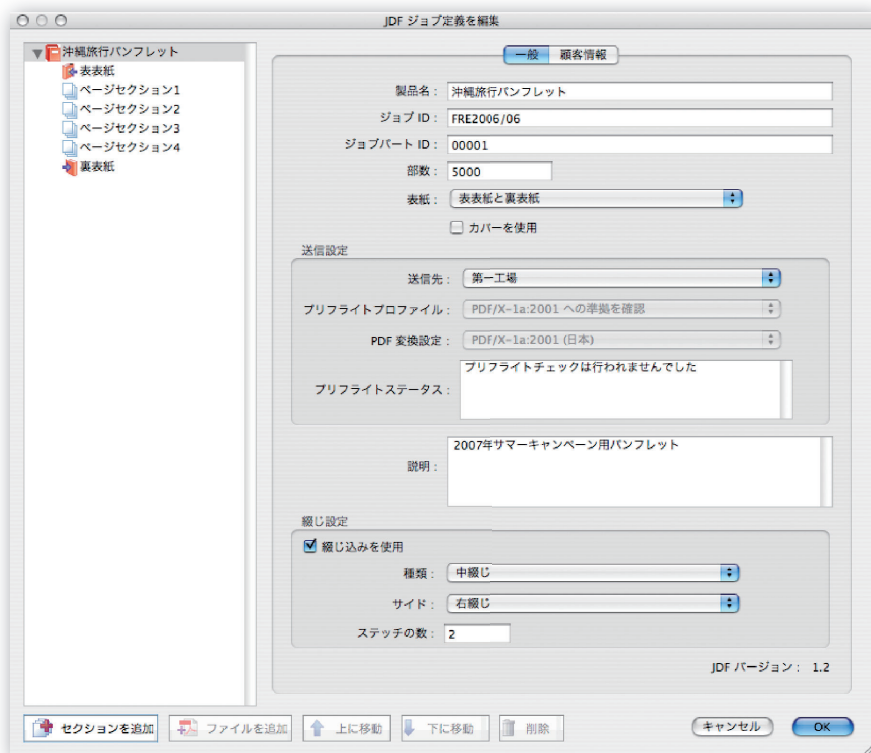


[注1] CIP4 (シーアイビーフォー、またはシップフォー) : The International Cooperation for the Integration of Processes in Prepress, Press and Postpress。プリプレス (製版)、プレス (印刷)、ポストプレス (断裁、製本等) を一貫して管理、運用するためのデバイス、ソフトウェアの仕様。印刷関係の主要企業で構成されるCIP4 Organizationによって、仕様の定義が行われている。

[注2] JDF: Job Definition Format。CIP4仕様のデバイス、ソフトウェアの間で情報をやり取りするためのフォーマット。一種のジョブチケット (電子伝票)。XMLをCIP4用にカスタマイズしたもの。

[注3] XMP: Adobe eXtensible Metadata Platform。アドビシステムズが開発したメタデータ記述方式。XMLをカスタマイズしたもの。Adobe Creative Suiteの各アプリケーションは、そのメタデータ (文書情報) をXMPで書き出し、読み込みができる。また、それらのファイルをPDF化した場合もXMPとしてPDF内に引き継ぐことができる。

[注4] XML: eXtensible Markup Language = 拡張可能なタグ言語。異なるデータベースとのデータ交換などのために定義されたデータフォーマット。Web (HTML) との交換に便利のため、現在では多くのデータベースシステム、アプリケーションソフトでXMLが何らかの形で利用できるようになっている。



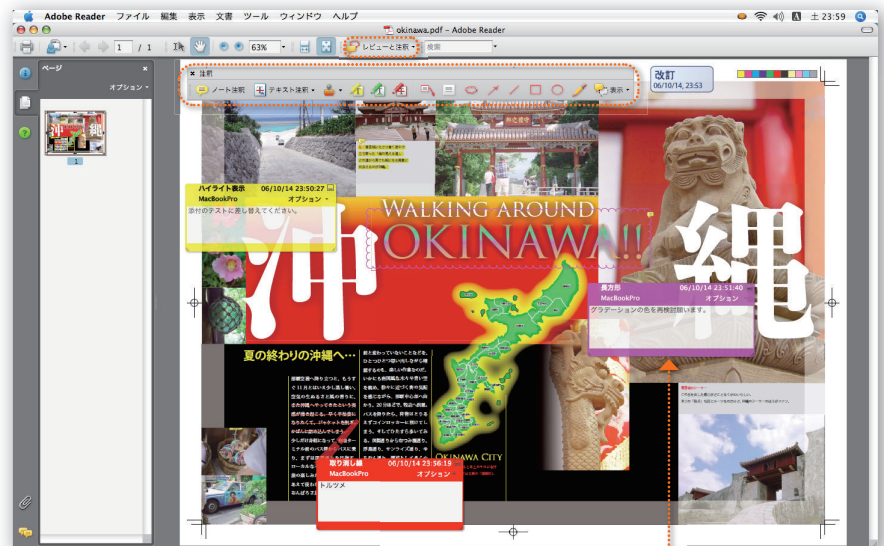
JDFジョブ定義を編集する画面。JDFの普及に当たっては、簡易なXMLエディタの存在が不可欠です。Acrobat 8 Professionalでは、XMLのタグを知らなくても、簡単にジョブ定義を作成することができます。

6 レビュー

Adobe Readerでの注釈の書き込みに対応

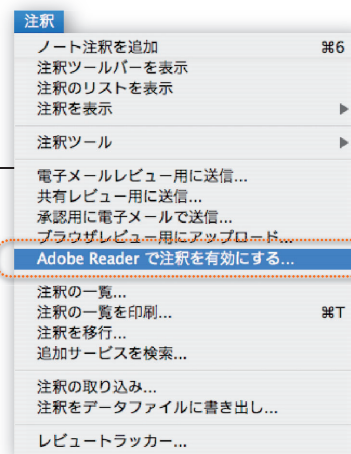
従来、Adobe Readerでは、注釈を読むことしかできませんでした。Acrobat 8 Professional上で、「Adobe Readerで注釈を有効にする」を実行し、保存すると、Adobe Reader 8で注釈を書き込むことができるようになります。

Adobe Readerでは、通常は注釈関係のメニュー、ボタンは表示されません。しかし、「Adobe Readerで注釈を有効にする」が実行されたPDFを開いたときに限り、注釈関係のメニュー、ツールボタン等が表示され、それらの機能を利用できるようになります。



注釈メニュー

▶ Adobe Readerで注釈を有効にする



レビューと注釈メニューや注釈ツールバーが自動的に追加・表示され、PDFにコメントや電子印鑑、スタンプなどを付けることができます。

※Adobe Reader 7.0でも利用可能です。

注意：いったん「Adobe Readerで注釈を有効にする」として保存すると、Acrobat機能の一部が制限されます。制限されていない (Adobe Readerで拡張機能を持たない) PDFのコピーを作成するには、ファイルメニュー/コピーを保存...を選択します。

▶ **アドビ カスタマー サービス** Tel. ナビダイヤル 0570-06-7337または 03-5350-0407
電話受付時間 9:30～17:30 (土、日、祝日および弊社指定休日を除く)

▶ **アドビストア (注文専用)** フリーダイヤル 0120-61-3884

Better by Adobe.™

アドビ システムズ 株式会社 〒141-0032 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー www.adobe.com/jp/

このカタログに記載の情報は、2006年10月現在の情報です。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, Adobeロゴ, Adobe Illustrator, Adobe Reader, Acrobat, Adobe PDFロゴ, Distiller, Dreamweaver, GoLive, InCopy, InDesign, Macromedia, Photoshop, PostScript, PostScript 3およびVersion Cueは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。MacおよびMacintoshは、米国および他の国々におけるApple Computer, Inc.の登録商標です。インテルおよびPentiumは、アメリカ合衆国および他の国におけるインテルコーポレーションおよび子会社の登録商標または商標です。PowerPCは、International Business Machines Corporationの米国ならびに他の国における登録商標です。MicrosoftおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国ならびに他の国における商標または登録商標です。Javaは、米国Sun Microsystems, Inc.の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。その他すべての商標は、それぞれの権利帰属者の所有物です。

©2006 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved. ASJST639 2/07

